

イメージする力、

ある日の「美術と教育」の出来事

登壇者

日比野 克彦

奥村 高明

飯田 志保子

会田 大也

「イメージする力、
その先にあるもの」

11.3 (日・祝) 14:00-15:30
2019 岐阜県美術館 講堂、無料

シンポジウム

生きる力
楽美初日



日比野 克彦

HIBINO Katsuhiko

1958年 岐阜県生まれ。岐阜県美術館長。東京藝術大学美術学部長、先端芸術表現科教授。日本サッカー協会社会貢献委員会委員長、東京都芸術文化評議会専門委員。大学在学中に段ボールを用いた作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、舞台美術、パブリックアートなど、多岐にわたる分野で活動。近年は、各地で一般参加者とその地域の特性や関係性、人々の違いを生かしたアートプロジェクトやワークショップを数多く行っている。2015年からは障がいの有無、世代、性、国籍などの背景や習慣の違いを超えたアートプロジェクト「TURN」を監修。2017年度から東京2020公認文化オリンピアドとして実施。2017年度から「アート×福祉」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト「Diversity on the Arts Projects(通称:DOOR)」(2017-)を監修。



奥村 高明

OKUMURA Takaaki

1958年宮崎県生まれ。日本体育大学児童スポーツ教育学部教授、日本教材備品協会理事、東京国立近代美術館評議員、一般社団法人AC人材能力開発協会理事。小中学校教諭、美術館学芸員、文部科学省教科調査官、聖徳大学児童学部長を経て現職。専門は図画工作・美術教育、鑑賞教育など。1998年、2008年、2017年の小学校学習指導要領図画工作科及び解説書、特定の課題に関する調査(図画工作)、教育課程実施状況調査等に委員や担当官として関わる。著書に『子どもの絵の見方～子供の世界を鑑賞するまなざし』(東洋館出版社、2010)、『美術館活用術～鑑賞教育の手引き ロンドン・テートギャラリー編』(美術出版社、2012)、『エグゼクティブは美術館に集う～「脳力」を覚醒する美術鑑賞』(光村図書出版、2015)、『マナビズム―「知識」は変化し、「学力」は進化する』(東洋館出版社、2018)がある。



飯田 志保子

IIDA Shihoko

1975年東京都生まれ。キュレーター。名古屋を拠点に活動。1998年開館準備期から11年間東京オペラシティアートギャラリーに勤務。主な企画は「ヴォルフガング・ティルマンズーFreischwimmer」(2004年)、「トレース・エレメンツ―日豪の写真メディアにおける精神と記憶」(東京オペラシティアートギャラリー、2008年)／パフォーマンス・スペース、シドニー、2009年)など。2009年から2011年までブリスベンのクイーンズランド州立美術館／現代美術館内の研究機関ACAPAに客員キュレーターとして在籍後、韓国国立現代美術館2011年インターナショナル・フェローシップ・リサーチャーとしてソウルに滞在。帰国後「第15回アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ2012」(日本公式参加)、「あいちトリエンナーレ2013」、「札幌国際芸術祭2014」など国際展のキュレーターを歴任。2014年10月から2018年3月まで東京藝術大学准教授。アジア地域の現代美術、共同企画、美術館やビエンナーレをはじめとする芸術文化制度と社会の関係に関心を持ち、ソウル、オーストラリア複数都市、ニューデリー、ジャカルタ各地域で共同企画展を実践している。



会田 大也

AIDA Daiya

1976年東京都生まれ。情報科学芸術大学院大学[IAMAS]修了後、2003年から2014年までメディアアートをテーマとした山口情報芸術センター[YCAM]に教育普及担当として勤務。鑑賞プログラムや市民参加プログラム、メディアワークショップや公園型展示作品の企画運営を行う。これらの事業でキッズデザイン賞大賞やグッドデザイン賞、メディア芸術祭審査委員会推薦作品など受賞。2013年に、国際交流基金による日・ASEAN友好協力40周年記念日本と東南アジアを巡回するメディアアート展「MEDIA/ART KITCHEN」に、7カ国13名のキュレーターチームの一員として協働した。2014年より5年間、東京大学リーディング大学院プログラムGCL-GDWS特任助教として、ワークショップデザインを教える。